



村山市 **小中** **未来** **スクール** 構想会議

村山市小中未来スクール構想会議設置要項

会 議

- 第1回 「村山市の小中学校教育の充実に向けて」
- 第2回 「これからの時代を生きる村山市の子供たちに必要な力は何か」
「村山市の強みを活かしてどのような教育ができるか」
- 第3回 「視察研修 戸沢村立戸沢学園、新庄市立萩野学園」
- 第4回 「村山市の特色ある教育活動について」
「教育活動を展開するための方策について」
- 第5回 講話 山形大学 理事・副学長 出口 毅 氏
～ これからの理想の学校について～

令和5年（2023年）2月



村山市小中未来スクール構想会議設置要項

(設置)

第1条 近い将来訪れる小学校の統合に向け、村山市が理想とする小中学校の在り方、理想の学校像について自由に議論し「次期統合計画」の基本的な指針やその構想となるような方向性を見出すために「村山市小中未来スクール構想会議」（以下構想会議とする）を設置する。

(所掌事務)

第2条 構想会議は、次の各号に掲げる事項について議論する。

- (1) 村山市の小・中学校の理想とする学校像に関する事。
- (2) これからの時代を生きる子供たちに必要な力に関する事。
- (3) その他理想の学校像に向けて必要な事項に関する事。

(構成)

第3条 構想会議委員は、委員8名をもって組織する。

2 委員は次の者をもって構成する。

- (1) 学識経験者のうちから教育委員会が委嘱する者
- (2) 村山市立小中学校の教員の職にある者
- (3) 村山市幼児教育・保育施設連絡協議会会長にある者
- (4) 教育長
- (5) 前各号に掲げる者のほか、教育委員会が必要と認める者

3 委員の任期は、前条の主な検討事項に関する協議が終了したときまでとする。

(委員長及び副委員長)

第4条 構想会議委員会に委員長副委員長をそれぞれ1人置く。

2 委員長は教育長をもって充てる。

(招集等)

第5条 構想会議は、委員長が招集し、その会議の議長となる。

2 委員長は、必要に応じて、構想会議に委員以外の者の出席を求めることができる。

(検討部会やワーキンググループ)

第6条 構想会議で議論及び検討する事項について必要に応じ検討部会を置くことができる。

2 検討部会の組織及び運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、教育委員会学校教育課が行う。

(その他)

第8条 この要項に定めるもののほか、構想会議の運営に関し、必要な事項は委員長が定める。

附 則

この要項は、令和4年2月21日から施行する。

2. 構想会議委員の構成と会議概要

(1) 委員の構成

No.	区 分	氏 名	備 考
1	学識経験者	出口 毅	山形大学理事（兼）副学長 （特別委員・アドバイザー）
2	教育委員会	大内 敏彦	村山市教育委員会教育長
3	小学校	井上 敏春	村山市立楯岡小学校長
4	中学校	宗片 史樹	村山市立葉山中学校長
5	幼保施設	井上 信也	村山市幼児教育・保育施設連絡協議会会長 （村山市はやま認定こども園 園長）
6	教育委員会が必要と認める者	佐藤 洋介	村山市地域おこし協力隊（元政策推進課長）
7	教育委員会が必要と認める者	大山 裕貴	村山市に移住（名古屋出身）村山市白鳥在住
8	教育委員会が必要と認める者	笹原 美智子	地域専門員（大倉地域市民センター） 小学校の在り方検討委員（公募）

事務担当

No.	区 分	氏 名	備 考
1	事務局	井澤 豊隆	教育委員会学校教育課長
2		奥山 竜一	教育委員会教育指導室長
3		奥山 寛幸	教育委員会学校教育課長補佐（兼）指導室長補佐
4		大沼 直樹	教育委員会学校教育課指導主査（兼）指導主事
5		森谷 洋子	教育委員会学校教育課指導係長（兼）指導主事
6		工藤 幸吉	教育活動専門員
7		永瀬アツ子	教育委員会学校教育課庶務係長
8		坂木 宥也	教育委員会学校教育課主事補

(2) 会議の概要

第1回：令和4年2月21日（月）午後4時30分～ 市役所・第1会議室

- ①説明 「村山市立小学校の適正配置に関する計画について」 事務局
「小中学校教育の現状と課題について」 事務局

②議事 「村山市の小中学校教育の充実に向けて」

③委員の主な意見

- ・ 創造的な考え方ができる教育が必要となる。上位層を伸ばすことも行いたい。
- ・ 論理的に考えたり想像力を働かせたり、考えるための武器をどうやって持たせるかが大事である。
- ・ 「子供たちがなぜ村山市で学ぶのか」という地域の価値、創生を市全体で考えていくことが必要である。
- ・ 1学級の児童数は25人前後がいいのではないかと（適正規模）という報告がある（国立教育政策研究所）
- ・ 理想を語りながらも現実を直視し、出来るものにはいち早く取り組み、果敢に挑戦して欲しい。
- ・ 理想像を議論することはすごくいい。総力戦で考えていくしかない。
- ・ 伸びたい子どもを伸ばしてあげられる学校にしてほしい。心を伸ばすには芸術も必要である。

第2回：令和4年5月26日（木）午後3時～ 視聴覚教育センター第2学習室

- ①議事 「これからの時代を生きる村山市の子供たちに必要な力は何か」
「村山市の強みを生かしてどのような教育ができるか」

②委員の主な意見

- ・ 幼稚園と小・中学校のよさを生かすダイナミックな教育課程編成や学年編成を考えて理想の教育ができやすいベースをつくっていくことが大事ではないか。
- ・ 自ら課題を見つけ、自ら学び自ら考え判断して行動し、それぞれが思い描く幸せを実現することが、村山市の子供たちにもすごく重要だと思う。
- ・ 村山市では、食に関してクオリティーの高いものが目の前にある。農に限らずせつかく目の前にある資源を生かしていくべきだと思う。
- ・ 学校がいいからと人が移り住んでくるような魅力をしっかり発信し、村山市

だからできることをする必要があると思う。

- ・ 人間形成のうえであいさつはとても大事だと思う。芸術も心の癒しというか教育につながるものと思う。
- ・ 子供が自信をもって村山市の魅力を外に自慢できる環境を作ることが大人の役目だと思う。
- ・ これまでの教科教育をベースにしながら新しい教育に見合った教育に変えていくという作業も必要ではないか。先を見据えて再構築していく視点がないと魅力は出てこないで、「一歩先を行くとがったところ」を創っていくことをぜひ考えていってほしい。

第3回：令和4年6月29日（水）視察研修

- ①視察 「戸沢村立戸沢学園」 午前10時～
「新庄市立萩野学園」 午後1時50分～

②委員の主な感想

- ・ 高学年へ教科担任制で授業を行うなど、小中一貫して資質や能力を育てることができる。
- ・ 義務教育学校制をとることによって生まれる教員の人的リソースの余裕を、教育の充実に活用している。
- ・ 学力向上策の一つとして、9年間のスパンで自学力の向上のスキルアップをシステムとして機能させている。
- ・ 9年生のリーダー育成だけでなく、4－3－2ブロック制を生かして4年生と7年生のリーダーシップ育成にも取り組んでいる。
- ・ 小学校の卒業式がないのは親として残念な気持ちがある。
- ・ 義務教育学校や小中一貫校のシステムで指導のしやすさなどどういうものか、正直よく分からなかったところである。
- ・ 合併前の各学校の特色ある取り組みをなるべく廃止せず存続している一方で、PTA活動を大胆に見直している。
- ・ 通学の時間が30分以内であり、スクールバス9台が稼働している。
- ・ 隣接して幼児施設があるので、幼保小の連携がとりやすい。各地区に共育活動団体もあり、統合後も子供が大人と活動する姿がある。

第4回：令和4年9月9日（木）15：00 農村環境改善センター小集会室

- ①説明 「村山市未来スクール構想」の現在までのまとめ 事務局
②議事 「村山市の特色ある教育活動について」
「教育活動を展開するための方策について」

③委員の主な意見

- ・ 小学校が統合すると人口が減少していくのではないかという心配があり、これを機に大きい学校に転校しようということを止めるためには大きい目玉があつて、ここはいいなと思ってもらえる学校をつくっていく必要がある。
- ・ 単学級の小さい学校はいいように思えるが、教員採用でどんどん若い先生が入ってきているので、若い教師が単学級を一人で受け持つのはこれからしんどくなると思われる。集団で先生たちが指導や評価をしていく体制に変えていかなければいけないと思う。
- ・ 小中の連続性はどういう形であれ今から考えていかないと、小学校の教育が中学校で取り戻せないという現実があるので、9年間で考える必要がある。
- ・ 教育委員会の事業評価で、学校が地域のために何ができるかという発想が大事であるというコメントをいただいた。統合を見据えて、地域のために今の学校が統合までやれることを校長先生方をお願いしながら、大事にしていきたい。
- ・ 学校から帰ったらどうするかということで、福祉施設や体育施設などいろいろな施設を学校の周辺に一極集中で整えていくのか、学校が終わったら帰してあとは地域に任せて地域の中で活動できるような分署的なものにしていくのか、どっちがいいのか分からない。
- ・ 幼稚園・保育園で英語をやってもらって子供たちがすごく喜んでいるし、いろいろな活動を繰り返すとだんだんと言っていることが分かってくる。村山独自の幼保小連携新カリキュラムができるのではないかと感じる。
- ・ 統合を考えていくうえで、何かしら子供たちの意見を取り入れることを考えてほしい。
- ・ 村山市が大切にしてきたもの、育ててきたこと、培ってきたものは学校が替わっても教育に生かされていくということがしっかり伝わっていかなければいけないと思う。

第5回：令和4年10月18日（火）15：00 市役所全員協議会室

①講話 山形大学 理事・副学長 出口 毅 氏

『これからの理想の学校について』

○少人数による理想の学校

- ・ 学級、学年単位から学校へ、大きな教育活動は市レベルで
- ・ 多面的な児童生徒理解や評価
- ・ 授業の質向上へ
- ・ 主体性、個性重視

○特に重視する教科

- ・ 算数・数学：数理・データサイエンス教育の基礎（日常と結びつけて）

プログラミング的思考の重視

- ・ 理 科 : 問題解決の過程
- ・ 外国語 : 小中を通じた指導 ※もちろん国語も大事

○チーム学校の実現

- ・ 担任ガチャの克服
- ・ 学校目標における資質・能力育成の明確化 → 付いているかどうか
- ・ 子ども自らが動く学校
- ・ 教師の個性も生かす学校

○新しい教育の実現

- ・ ICT、デジタルは当たり前
- ・ 学び直しができる学校
- ・ 評価の共有（学びのプランー見通しー振り返り）

教師と子供で共有する仕組み

- ・ 学校全体を俯瞰できることの重要性
- ・ 教師も学び続ける（働き方改革の目的）

②説明 「検討委員会答申と村山市未来スクール構想」 地域説明会資料

③委員の主な意見

- ・ 教科学習で培った問題解決力を自由に使える本当の力にするには、総合的な学習もとても大事だと思うので、地域の良さを今のうちから豊富にして、地域での探究学習に力を入れる学校にしていくというような理想があるといいのではないかな。
- ・ 学級一学校一市という大きい単位で行事をしていくのも素敵だと思うし、大人が面白いと思ったことを実践していくことで、子どもが個性や主体性を学べるのではないかなとも思うので、村山大運動会というものを市全体の行事として開催出来たら面白いのではないかな。
- ・ 情報インフラは大変な速度で変わっていくので、教育現場の大人たちが情報技術の進化にある程度のレベルでついていかないと、現場に実践レベルでICTを導入するのはどんどん難しくなっていくのではないかな。
- ・ 学校がなくなることで地域がなくなったらどうするというレベルの話ではなく、村山市全体を存続させていくために統合が必要であるということの理由を明確にすることで地域の人たちの考え方も変わっていくのではないかなと思う。村山市の学校に通わせたいから、村山市に住もうと思ってもらえる学校を作るというビジョンも必要なのではないかな。
- ・ 英語は読みや書きの基本的な知識だけでなく、知識を応用したコミュニケーション能力を高めるためにも4技能を総合的に伸ばしていき GTEC で点数が

とれる力を身に付けるというような明確な目標があるといいのではないか。

- 10年先までの計画を提示して説明するというのは現実的であり、とても明確でいい。使わなくなった学校はエリアスクールといった形で残し、総合的な学習の「この活動」は「この地域」で行うというように、カリキュラムの中に学習するエリアを決めてしまってもいいのではないかと思う。子供たちが学んでいくということを地域の方にも説明し、地域学習をカリキュラムとして作ることによって、子どもたちが地域にちゃんと帰ってくるということを伝えてもいいのかなと思う。